

「青少年の意識に関する調査」 結果報告書

平成29年3月

青 森 県

はじめに

近年、青少年を取り巻く環境は、少子化や核家族化の進行、地域力の低下などに加え、情報化社会の進展などにより急速に変化しており、青少年の意識や行動に大きな影響を及ぼしています。

とりわけ、携帯電話やスマートフォンなどの普及に伴い、青少年が有害な情報や危険な情報に容易に接することが可能となり、犯罪の被害者又は加害者となる痛ましい事件が発生しています。また、ネットいじめやネット依存などの新たな問題も顕在化しています。

このような社会の変化に対し、本県の青少年がどのような意識をもっているのかを捉えるため、県では隔年で「青少年の意識に関する調査」を実施し、総合的かつ効果的に青少年行政を進めていくための基礎資料としています。

今年度は、県内の小学校・中学校・高等学校41校の御協力をいただき、地域のこと、自分のこと、メディア・コミュニケーションのことなどについて調査を実施し、青少年の意識と行動について報告書にとりまとめました。

この報告書が、行政はもとより、青少年の育成に携わる皆様に広く御活用され、あおもりの未来を担う人財[※]である青少年が、心豊かに健やかに成長していくための今後の施策や活動の一助となれば幸いです。

最後に、本調査の実施に当たり、御協力いただいた弘前大学教授の宮崎秀一氏をはじめ、各学校関係者及び関係者各位に厚くお礼申し上げます。

平成29年3月

青森県環境生活部青少年・男女共同参画課長

山谷 文子

※人財：青森県では「人は青森県にとっての『財（たから）』である」という基本的考えから、「人」「人材」などを「人財」と表しています。

目 次

第1部 調査の概要	1
第2部 調査結果の概要	7
1 地域のこと	
住んでいる地域への評価	9
住んでいる地域が好きな理由	11
住んでいる地域の良くなってほしい点	13
地域の大人へのあいさつ	15
地域の大人からのあいさつ	17
声がけに対する心境	19
地域活動への参加	21
ボランティア活動への参加	23
ボランティア活動をする理由	25
地域活動等へ参加しない理由	27
2 世の中のこと	
世の中の出来事に対する関心	29
世の中の出来事についての会話	30
3 学校のこと	
学校生活への満足度	31
学校生活が楽しい理由	33
学校生活の良くなってほしい点	35
4 家族・家庭のこと	
家族・家庭への評価	36
家族との会話の頻度	38
家族の中で一番話をする人	40
一番話をする理由	41
家族との約束ごと	42
家族や家庭に大切なこと	45
周囲の大人について	47
周囲の大人に望むこと	55
5 自分のこと	
自己への評価	63
自己への評価（満足度）	65
自己への評価（性格など）	74
自身への思いやり	83
他人への思いやり	85
命について	87
悩みごと	89
悩みごとの相談相手	91
相談しない理由	93
6 メディア・コミュニケーションのこと	
友だちとのコミュニケーション方法	95

携帯電話・スマートフォンの所有状況	97
携帯電話・スマートフォンの使用目的	99
SNSの参加目的	102
L I N Eの使用目的	104
携帯電話・スマートフォンの使用時間	106
フィルタリング機能の認知状況（携帯電話・スマートフォン）	108
フィルタリング機能の利用状況（携帯電話・スマートフォン）	109
自由に使えるパソコンの所有状況	111
自由に使えるパソコンの使用目的	113
自由に使えるパソコンの使用時間	116
フィルタリング機能の認知状況（パソコン）	118
フィルタリング機能の利用状況（パソコン）	119
年齢が制限されているサイトへのアクセス状況	121
悪口やいじめにつながる書き込みへの認知状況	122
携帯電話・スマートフォン・パソコンによる睡眠不足などの影響	124
インターネットで知り合った人とのメールなどのやりとり	125
インターネットで知り合った人と実際に会う	126
インターネットで知り合った人への写真や個人情報送信	127
ゲーム機や携帯音楽プレーヤーを使ったインターネット・L I N E等の利用状況	128
携帯電話・スマートフォン・パソコンなどの家庭での使い方ルール	129
インターネットの危険性の学習	131
7 読書のこと	
読書への評価	133
1日の読書時間	134
1か月の読書量	135
8 生活規範に対する意識	
深夜外出の状況	136
危険な刃物の購入等状況	137
生活規範に対する意識	138
9 社会変化に対する意識	
社会変化に対する意識	152
10 就労に関する意識	
将来の就労意識	162
職業選択で大切なこと	164

第3部 青森県の子ども・若者の現状と未来

一「青少年の意識に関する調査」（平成28年度）から一	167
弘前大学教育学部教授 宮崎 秀一 氏	

参考1 調査結果集計表	179
参考2 クロス集計グラフ	209
参考3 調査票	217